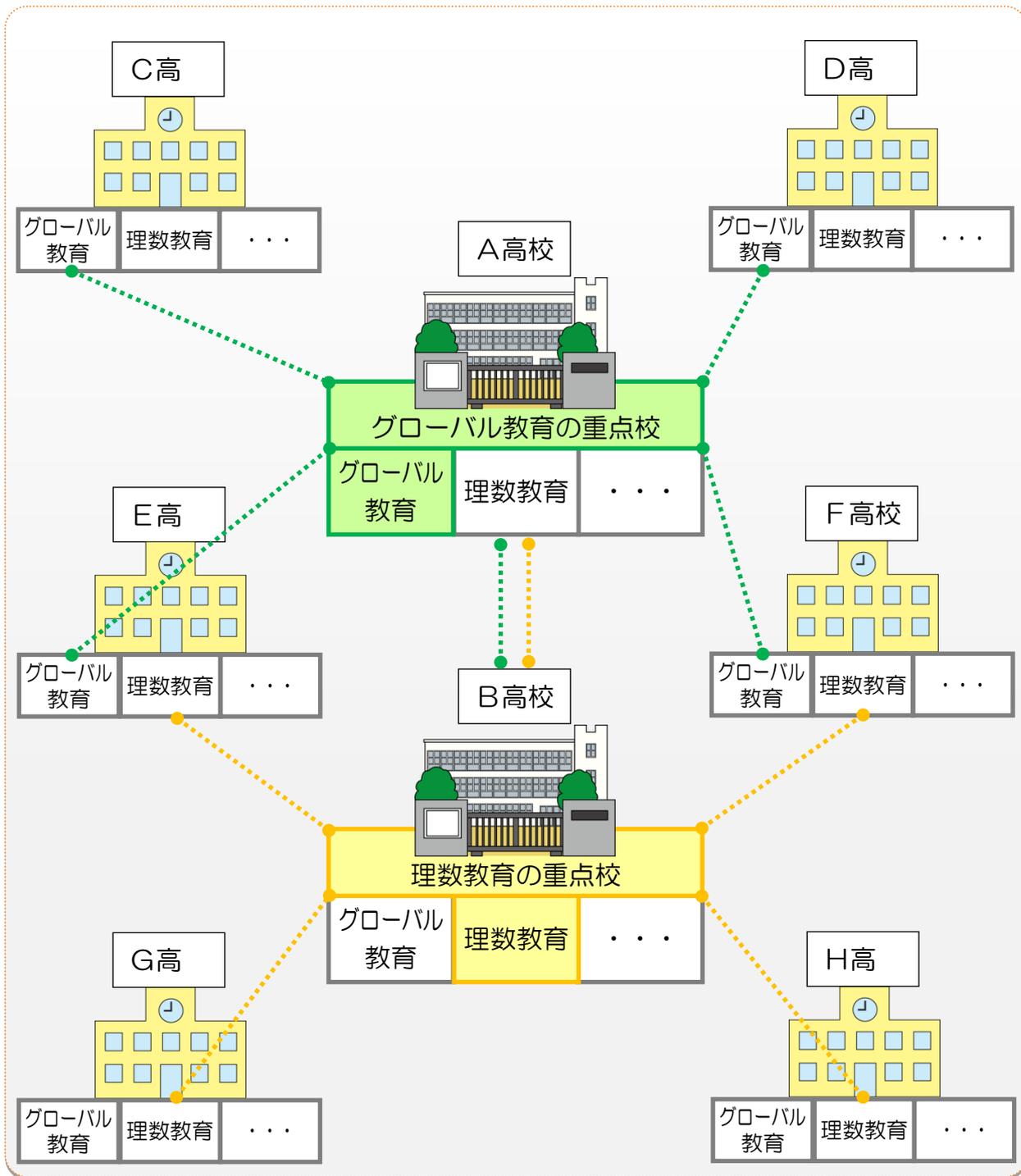


重点校・拠点校のイメージ

平成27年4月22日

1 普通科における重点校の例

普通科の高校においては、幅広い教育活動に取り組んでいるところであるが、グローバル教育、理数教育（医学部医学科進学等への対応を含む）等に関する特色ある教育課程の編成等により、当該分野の学習における中核的役割を担う重点校を設置することが考えられる。



グローバル教育の重点校
○社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等を身に付けるための教育課程を編成し、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を目指し、探究的な学習を行い、中核的役割を担う。

理数教育の重点校
○先進的な理数教育を行う教育課程を編成し、生徒の創造性・独創性を高める指導方法や教材等を開発し、他校に普及する。
○理工学部進学を目指すサイエンス系と医学部進学を目指すメディカル系等が考えられる。

※重点校においては、単位制や併設型中高一貫教育の導入についても検討。

(参考1：他県における重点校等の事例)

①グローバルスクール【千葉県：県立学校改革推進プラン（平成24年3月）】

世界を舞台に活躍できるグローバル人材を育成するため、平成27年度にグローバルスクールを設置し、グローバル人材育成のカリキュラムを開発し、その実践を普及する。

[対象校]

- ・千葉県立成田国際高校（文部科学省により平成27～31年度SGH指定）

②サイエンスハイスクール【茨城県：いばらき版サイエンスハイスクール事業（平成22年度～）】

高校生の医学に対する興味・関心を高め、医学部進学者を増加させるとともに、理数系高校生の総合的な学力向上を図る。

[対象校]

- ・茨城県立緑岡高校（文部科学省により平成25～29年度SSH指定）
- ・茨城県立竜ヶ崎第一高校（文部科学省により平成26～30年度SSH指定）

(参考2：本県における理数教育・グローバル教育に関する取組事例)

①医師を志す高校生支援事業（平成23年度～）

医学部医学科への入学者の増加を図るため、県内の3校（青森高校、弘前高校、八戸高校）が中心となり、医学科進学を目指す高校生の実力養成と教員の指導力向上等を図るための学習プログラムを実施。

地区 (中心となる高校)	参加校（平成26年度）
東青・下北 (青森高校)	青森高校、青森東高校、青森南高校、田名部高校、青森山田高校
中南・西北 (弘前高校)	弘前高校、弘前中央高校、弘前南高校、五所川原高校、東奥義塾高校、弘前学院聖愛高校、五所川原第一高校
三八・上北 (八戸高校)	八戸高校、八戸北高校、八戸西高校、三本木高校、ウルスラ学院高校、八戸工業大学附属第二高校

②スーパーグローバルハイスクール（SGH）

語学力とともに幅広い教養、問題解決能力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できる人材を高等学校段階から育成するため、課題研究等を行う文部科学省の指定校。

[対象校]

- ・青森高校（平成26～30年度指定）

③スーパーサイエンスハイスクール（SSH）

科学技術や理科・数学に関する教育を重点的に行い、高等学校におけるカリキュラム開発等を行う文部科学省の指定校。

[対象校]

- ・八戸北高校（平成17～21・22～26年度指定）
- ・三本木高校（平成22～26年度指定）

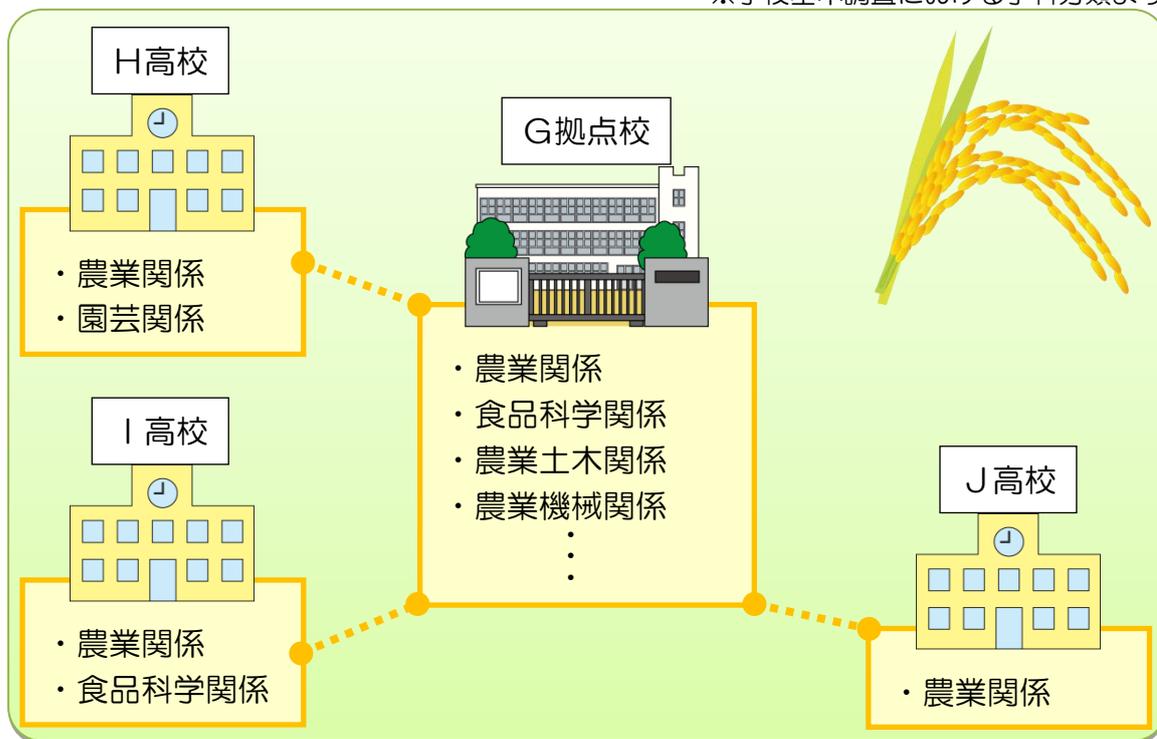
2 専門学科における拠点校の例

職業教育を主とする専門学科については、特定の学科における専門科目を幅広く学ぶことのできる拠点校を設定し、拠点校と他の高校との間で、生徒による合同研究や教員研修等での連携が考えられる。

【農業に関する学科の拠点校の例】

県全体の農業教育の充実を目指し、農業分野について幅広く学ぶことができ、農業教育の中核的役割を果たす拠点校を設置することが考えられる。

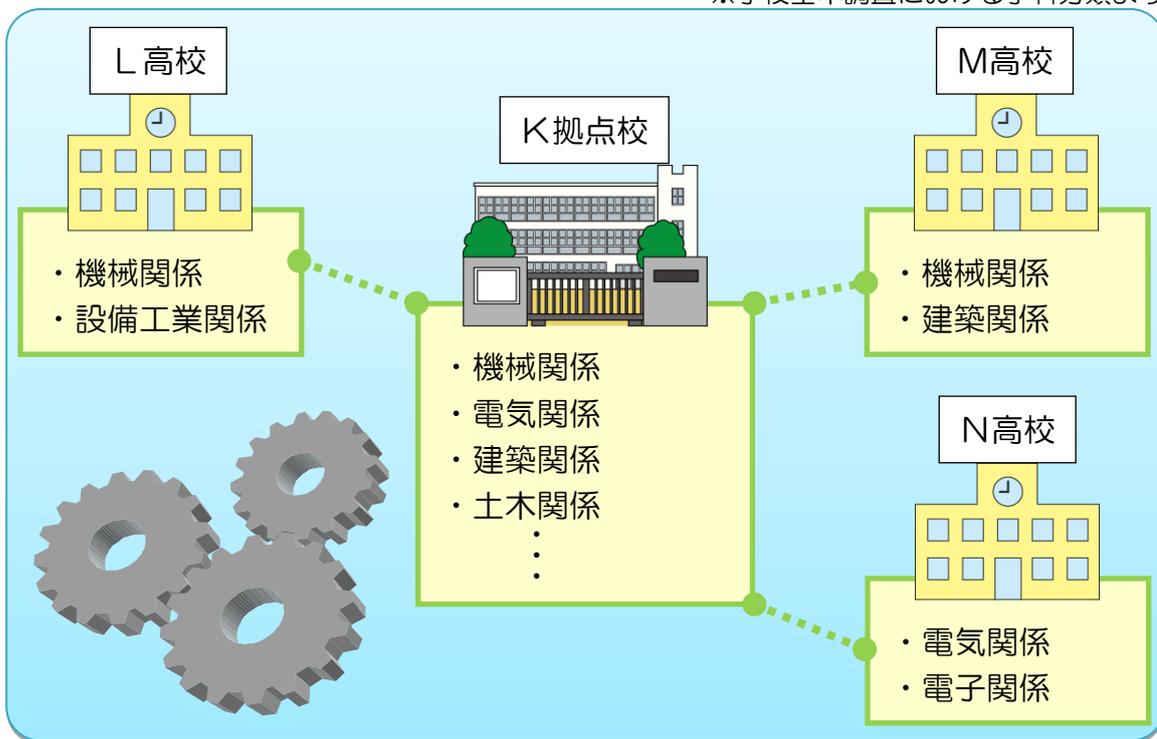
※学校基本調査における学科分類より



【工業に関する学科の拠点校の例】

県全体の工業教育の充実を目指し、工業分野について幅広く学ぶことができ、工業教育の中核的役割を果たす拠点校を設置することが考えられる。

※学校基本調査における学科分類より



(参考：他県における拠点校等の事例)

○農業教育の拠点校・中心校（千葉県）

